



News Letter

No.31

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2018年3月31日発行

【本号のトピックス】

口腔機能低下症が新病名に! / 第29回学術大会のご案内 / 研修会開催報告 / 専門医活動レポート・認定者の声 / 支部だより / 森戸監事が日本歯科医学会会長賞受賞 / 委員会だより ほか

口腔機能低下症が新病名に!

本学会学術委員会が、2016年に「高齢期における口腔機能低下—学会見解論文 2016年度版—」を老年歯科医学第31巻第2号に公表しました。それを機に2016年11月22日に、本学会としては初めて報道発表会を開催し、参加者に対して口腔機能低下症の解説と各検査機器の実体験も実施しました。その効果から高齢者における口腔機能低下が、大手新聞電子版、医療関係の新聞や雑誌、さらに数冊のムックの中にも取り入れられました。また厚労省にも出向き説明を行いました。それらの相乗効果からか、今回予想以上に早く、本年4月に口腔機能低下症が病名として認められ、見解論文の検査項目が、文言の修正だけでほぼそのまま保険収載されました。理事長として所信表明に挙げた「学会として社会に貢献する活動を行う」のうちの大きなものが実行できたと自負しております。

ご存知のように口腔機能低下症は、口腔内の微生物の増加、口腔乾燥、咬合力の低下、舌や口唇の運動機能の低下、舌の筋力低下、咀嚼や嚥下機能の低下など複数の症状が混在しています。その診断基準は、口腔機能低下症の7つの下位症状（口腔衛生状態不良、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下）のうち、3項目以上該当する場合に口腔機能低下症とします。保険診療においては、当該患者の口腔機能評価に基づく管理計画を作成し、継続的に療養上必要な指導を行った場合に、歯科疾患管理料（100点）に加えて、口腔機能管理加算の100点が算定できます。なお加算にあたっては施設基準を満たす診療所（いろいろな記載がありますが、検査機器があれば取得可能なので、届出を出す必要あり）で、咀嚼能力検査（140点）、

一般社団法人日本老年歯科医学会理事長 櫻井 薫
咬合圧検査（130点）、舌圧検査（140点）を行った場合に算定できます。ただし咀嚼能力検査と咬合圧検査の同時算定はできません。

「口腔機能低下症の基本的な考え方」は、web上であれば、日本歯科医学会のhttp://www.jads.jp/basic/pdf/document_02.pdfに行っていただくか、書籍であれば今後出版されるであろう『歯科点数表の解釈』の後半にある「診療に関するガイドライン」に記載されるので、参照してください。

会員各位は、日常臨床において率先して口腔機能低下症への対応を開始し、オーラルフレイルの予防にも邁進していただき、4月から口腔機能関連事項をきちんと算定していただきたいと思います。

なお、品川区のきゅりあんで開催される第29回本学会学術大会でも6月23日（土）の14:10から「口腔機能低下症のアウトカムと評価基準の再評価」と題したシンポジウムがありますので、ぜひ参加していただければと思います。

「口腔機能低下症」を知っていますか？

咬合力低下
咀嚼機能低下
嚥下機能低下
口腔乾燥
口腔不潔
舌口唇運動機能低下
低舌圧

「口腔機能低下症」を診断しましょう
詳しくはホームページで
<http://www.gerodontology.jp/>

「口腔機能低下症」をおぼえてください
詳しくはホームページで
<http://www.gerodontology.jp/>

一般社団法人日本老年歯科医学会第29回学術大会のご案内 ～東京でお会いしましょう！～

第29回学術大会準備委員長 北川 昇

6月22日(金)・23日(土)にきゅりあん(品川区立総合区民会館、大井町駅前)において、第29回学術大会を開催いたします。メインテーマを「高齢者の口腔医学」とし、老年歯科医学のみならず多職種での取り組みも知ることを目指しています。多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。

【企画充実!】

1. 旬のトピックが充実!

メインシンポジウム「脳卒中患者の老年口腔医学」や日台老年歯科医学会合同シンポジウム「高齢者のMRONJ(薬剤関連顎骨壊死)の最新像」、教育講演「訪問先でインプラント患者に遭遇したら～超長寿社会における安全なインプラント管理～」といった会員の先生方に興味をもていただける臨床に即した企画を多数準備しました。

2. 多職種の方々も楽しんでいただけます!

歯科衛生士シンポジウム「歯科衛生士が知っておきた

い多職種連携のための Up to Date」や教育講演「超高齢社会の栄養」など、広い分野の方々に興味をもていただけるような企画と準備を進めております。

3. スマートフォン用の抄録閲覧アプリを準備いたします。重い抄録集から解放され、検索も快適です。

【日程】

21日: 理事会, 認定医審査, 摂食機能療法専門歯科医師指定研修等

22日: 学術大会, 社員総会, 会員懇親会(グランドプリンスホテル高輪)

23日: 学術大会

詳細は、学術大会ホームページ

(<http://web.apollon.nta.co.jp/gero29/>) をご覧ください。

【事前参加登録期間】4月26日(木)正午まで

【会員懇親会】参加人数に限りがございますので、事前参加登録をお勧めいたします。



第4回高齢者医療臨床研修会開催報告

研修委員会幹事 潮田高志

第4回日本老年歯科医学会高齢者医療臨床研修会が福岡支部、佐賀支部、長崎支部、大分支部、熊本支部、宮崎支部、鹿児島支部の共催、また福岡県歯科医師会、佐賀県歯科医師会、長崎県歯科医師会、大分県歯科医師会、熊本県歯科医師会、宮崎県歯科医師会、鹿児島県歯科医師会の後援を受け、2018年3月18日(日)「JR博多シティ会議室」にて開催されました。

第3回(東京開催)と同様に「在宅高齢者などに対する歯科治療のリスク管理～地域の新たなかかりつけ歯科医を目指して～」をテーマとし、原土井病院みどりのクリニック 長尾哲彦先生から「身体所見から読み解く高齢者の健康状態」、昭和大学医学部麻酔科学講座 岡 秀一郎先生から「在宅高齢者訪問歯科診療におけるリスク管理と緊急対応」、九州歯科大学口腔保健・健康長寿推進センター 大渡凡人先生から「全体的偶発症症例から学ぶ有病高齢者のリスクマネジメント」の3演題をそれぞれご講演いただきました。

事前参加登録締切前に100名の定員が満席となり、九州地区各県から広くご参加をいただきました。当日も、主に九州地区で活動される歯科医師の熱心な姿勢に講師が応える有意義な研修会となりました。高齢者の健康を支える臨床現場の全身管理に関する期待に沿えますよう、2018年度も本会事業として高齢者医療臨床研修会を企画してまいります。



講師の先生方を囲んでの質疑応答の様子

専門医活動レポート

多職種連携の中で専門医として磨かれる

米山歯科クリニック 米山武義

私は同じ専門医の栗原歯科医師とともに、静岡県三島市で多職種連携としての口腔ケアネットワークを2005年に立ち上げました。最初は他の職種の仕事（業務）内容がわからず、会話にぎこちなさが目立ちましたが“食の支援”“口腔のケア”という共通テーマに思いを寄せるうちに壁が一つずつなくなっていき、心地よい人間関係が醸成されていきました。この経験によって職種を越えて率直に治療に関する、あるいは療養上の相談ができるようになりました。

ネットワークでは1～2ヵ月に1回、役員会を開き、3ヵ月ごとの対外的に開かれた多職種の勉強会の打ち合わせを行っています。

「どうしたら連携がスムーズになるか」「ストレスの少ない患者さんの紹介状について」「誤嚥性肺炎を予防する地域での取り組み」等々、議論が始まるとあっという間に3時間ほど経過してしまいます。この過程で各職種とも同じ悩みをもっていることに気づき、信頼関係がさらに深まっていきます。私は専門医こそ、地域における職種間の橋渡しの役割を担うべきだと強く感じています。平らな関係の中で専門医として磨かれていく自分が嬉しく感じます。



老年歯科専門医の活動レポート

小向井歯科クリニック 小向井英紀

私は歯学部在学中から高齢者歯科医療に興味をもち、卒後も口腔外科で高齢者歯科診療に必須の全身管理を学び、その後も離島で訪問診療を含む歯科診療に携わったり、特養や老健を併設する病院歯科で勤務し、病院や介護施設で口腔ケアシステムの立ち上げを経験したりしました。そして開業後も学会活動を行いながら、県歯科医師会の高齢者部門にも所属し、地域歯科保健活動を展開してきました。

私の老年歯科専門医としての基本理念は「歯科からの健康長寿」です。その達成のために、個人としては、臨床医として一般高齢者の歯科治療だけでなく、積極的に要介護高齢者の訪問歯科診療や介護予防も行うこと、また学会活動として研究や調査で得られた知見や学会参加で得られた情報を発表、発信すること、そして組織の一員としては、歯科医師会活動として地域保健活動を展開し、歯科口腔保健衛生事業、地域包括ケアシステムを見据えた多職種連携強化、高齢者歯科診療で活躍できる人材育成、県民への啓発活動等を行うことが重要であると考えております。

今後もさらに老年歯科専門医として研鑽を積み、この分野でリーダーシップを発揮できるよう精進していきたいと思う所存です。



居家で寝たきりの要介護高齢者に歯科治療を施す筆者

新規 専門医認定者の声

谷口裕重先生

(藤田保健衛生大学医学部歯科口腔外科)

私が老年歯科専門医を目指したきっかけは、専門である摂食嚥下リハビリテーションの知識を向上させることはもちろんのこと、認知症、廃用、多剤服用などの要素が絡み、複雑化している老年歯科医学に対応できる歯科医師になりたいと考えたからです。

専門医の勉強をする中で、全身管理に関する知識とともに、病院、在宅、施設でのシームレスな歯科治療およびリハビリテーションを提供するには、単一職種での対応は困難であることを改めて感じました。

今後は、一層のモチベーションをもって臨床、研究、教育に当たると同時に、後輩が私たちをみて「老年歯科専門医を目指したい」と思うような歯科医師になれるよう、さらなる研鑽を積んでいきたいと思っております。



大和泰子先生

(医療法人乾洋会タクデンタルクリニック)

専門医を目指す皆様へ。

私は歯科医歴10年目の勤務医です。2017年11月12日に行われた日本老年歯科医学会専門医の認定試験に合格することができました。数年前までは本学会の研修機関に所属しており、現在は某歯科医院で在宅・外来診療を行っています。患者さんの多くが有病者で、それぞれに合ったベストな治療方針を見つけるのに日々精進の毎日です。

さて専門医の認定試験についてですが、受験するためには症例報告書が必要で、特に注意した点や改善すべき点についてアピールしました。筆記試験は口腔外科学や老年医学を中心とした内容であり、私たちが有するに必要な基本問題が多かったです。

まだまだ未熟者で勉強の毎日ですが、患者さんの幸せへの手助けが少しでもできるように今後も謙虚な姿勢で治療に取り組んでいきたいと思っております。



支 部 だ よ り

愛知支部主催セミナー 「第4回東海オーラルマネジメント研究会」 開催報告

愛知支部 大野友久

2018年1月21日(日)に第4回東海オーラルマネジメント研究会が開催されました(参加者98名)。「地域連携で成功へと導く周術期オーラルマネジメント!」をテーマとし、関谷秀樹先生(東邦大学医療センター大森病院口腔外科)に「高度急性期病院を起点とした持続可能でシームレスな周術期オーラルマネジメント」と題してご講演いただき、次に東海地方の先生方によるシンポジウムを開催し、参加者にとって有意義な研究会となりました。



講師の関谷秀樹先生(左奥)・シンポジストの先生方

福岡支部研修会 「福岡地域における高齢者歯科診療の 向上と地域連携を目指して」開催報告

福岡支部 梅本文二

2018年1月28日(日), 福岡県歯科医師会館大講堂にて標記の福岡支部研修会が開催されました(参加者75名)。内藤徹 福岡歯科大学高齢者歯科学分野教授に「高齢者の歯科診療 はじめの一步」, 柿木保明 九州歯科大学老年障害者歯科学分野教授に「病態と自然治癒力を考慮した高齢者歯科診療について」, 大渡凡人 九州歯科大学口腔保健・健康長寿推進センター教授に「有病高齢歯科患者のリスクマネジメントー血液検査データ, 薬剤情報, 心電図から有病高齢者の安全な歯科治療を行うにはー」, 柏崎晴彦 九州大学高齢者歯科学・全身管理歯科学分野教授に「周術期における高齢者の口腔健康管理」というテーマでそれぞれご講演いただきました。今回は、福岡県の3大学歯学部の高齢者歯科を扱う講座がそろい踏みし、初めて一堂に会しての研修会となりました。1日ばかりとなりましたが、講演後には演者と参加者の間で活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに終了しました。



左より, 内藤 徹, 柿木保明, 柏崎晴彦, 大渡凡人 各先生

第2回千葉支部主催セミナー 「高齢者の健康長寿と栄養について」 開催報告

千葉支部 杉山哲也

2018年2月11日(日・祝), 標記セミナーが千葉県歯科医師会, 同歯科衛生士会の後援を受け県歯科医師会館で開催されました。東京都健康長寿医療センター研究所副所長の新開省二先生による「健康長寿の秘訣:最近の考え方ー『健康長寿新ガイドライン』策定を終えてー」と新八千代病院管理栄養士の大嶋晶子先生による「高齢者や嚥下障害者をチームで支える管理栄養士の役割」の2講演が行われました。100名近い多数の参加者とともに高齢者の栄養について最新の知見を学ぶ機会をもつことができました。



お2人の講師を囲んでの活発な質疑と討論

栃木支部共催セミナー 「口腔ケア研究会 市民公開講座」 開催報告

栃木支部長 尾崎研一郎

栃木支部では、2018年3月24日(土)足利市民プラザにて「一般社団法人足利歯科医師会主催 口腔ケア研究会市民公開講座～認知症と食～」を、足利歯科医師会等との共催で開催しました(参加者180名)。講演1に「知ろう 認知症」と題し、見川彩子先生(医師, 順天堂大学医学部附属浦安病院リハビリテーション科脳神経内科)にお話をいただきました。また講演2として尾崎が、「認知症に関わる口腔問題」をテーマに発表しました。一般演題も認知症をテーマに3演題あり、足利で活躍する看護師, 薬剤師, 歯科衛生士が登壇しました。地域での多職種連携の重要性が再確認できた研究会となりました。



足利市民の皆様にもたいへん好評なセミナーでした

森戸光彦監事が日本歯科医学会会長賞を受賞

森戸光彦監事（前理事長）が、歯科医学・医術の研究に成果を収め、歯科医学・医療の向上に特に顕著な貢献があったと認められる者を顕彰する「平成 29 年度日本歯科医学会会長賞」を受賞され、2 月 19 日、日本歯科医学会より表彰楯とメダルを贈られました。おめでとうございます。



住友日本歯科医学会会長とともに授賞式にて

委員会だより

倫理委員会

委員長 角 保徳

昨今、研究不正など医療者の倫理観欠如に起因する問題が多く報道されるようになってきました。そのような中、医療者・研究者の倫理観の向上が必要であると全国・全世界的にいわれており、それは我々老年歯科医学会も例外ではありません。老年歯科医学会には倫理に関連する委員会として、倫理委員会、倫理審査委員会、利益相反委員会があります。その中で倫理委員会は、本学会ならびにその会員の倫理指針等に係る業務を行う、と規定されています。研究内容など、個別の倫理審査を行う倫理審査委員会と名前がよく似ていますが、倫理委員会の業務は異なります。倫理委員会の実務は、倫理に関する事項の協議、倫理規定違反の疑義があった場合に審議を実施する委員会です。さらには倫理審査委員会に関する規定、利益相反委員会に関する規定の確認業務を行ってお

ります。つまり本委員会は、学会全体としての倫理指針にかかわる委員会になります。あまり表に出る委員会ではないので、馴染みの薄い会員も多いと思います。とはいえ、本委員会が表に出ることが多いというのは、学会あるいは学会員に大きな倫理的問題が生じている、ということになるので、その機会がないことが望ましい委員会だともいえます。その状態をなるべく長く続けるには、学会員個々の倫理観向上が必要不可欠です。そこで新たに倫理委員会の活動の一環として、研究倫理に関する啓発活動を開始させていただくこととなりました（本ニュースレター別項参照）。それぞれの会員の立場によっては無関係な内容に思われるかもしれませんが、今後医療の世界はますます厳しくなってくることが予想されます。今のうちから医療・研究における十分な倫理観をもてるように、研究をこれから始める会員はもちろんのこと、すでに研究をされている会員も含め、高齢者歯科医療にかかわるすべての会員に目を通していただきたいと思います。

The European College of Gerodontology (ECG)との交流協定締結

国際渉外委員会委員長 小野高裕

2018 年 1 月 12 日付けで、本学会と ECG との交流協定が締結されました。ECG はヨーロッパを中心とした国際学術フォーラムで、交流協定には老年歯科医学会に関するポジションペーパーの作成も含まれており、今後の交流の成果が大いに期待されます。2018年の年次大会は、7 月 24 日に IADR のサテライトシンポジウムとして、ロンドンにおいて本学会ならびに GORG と合同開催予定です。詳細は ECG のウェブサイト（右記 QR コードからもアクセスいただけます）をご覧ください、ふるってのご参加をお待ちしております。



多職種連携委員会からのお願い

多職種連携委員会委員長 岩佐康行

第 29 回学術大会にて、シンポジウム「地域包括ケアシステムに関わるための第一歩～成功と失敗に学ぶ多職種連携～」を企画しております。これに先立ち、「地域包括ケアシステム」にかかわるアンケートを学会ホームページ上で実施しております。

職種にかかわらず広く皆様からの回答をお待ちしておりますので、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

右記 QR コードからの回答も可能です。



研究倫理の啓発① ～なぜ研究倫理の遵守が必要なのか～

倫理委員会幹事 大野友久

研究不正は科学への信頼を揺るがす、絶対に許されない行為（平成26年版科学技術白書）です。もちろんそれは本学会においても例外ではなく、研究や医療に係る本学会員は正しい倫理観をもつ必要があります。また、2020年度の学術大会から、論文発表だけでなく、学術大会における発表演題の倫理審査チェックが必要になる予定です。そこで、今後数回にわたって紙面をお借りし、研究に関する倫理について解説することとなりました。学会員の皆様におかれましてはぜひお読みいただければと思います。

- ・研究不正に対して社会的に厳しい目が向けられている
- ・学会員それぞれが十分な倫理観をもつべき
- ・発表演題の倫理審査チェックが必要に（2020年度から）

学会だより

支部セミナーのご案内

★詳細は、学会ホームページでご確認ください。

北海道支部主催セミナー 「第17回北海道口腔ケアセミナー」

日 時：2018年5月12日（土）12:30～17:00
会 場：北海道自治労会館
講 師：渡邊 裕（東京都健康長寿医療センター研究所）
渡邊紀子（ケアプランセンター雪の華）
古館さおり（高齢者総合福祉施設サン・グレイス）
主 催：北海道支部、北海道口腔ケア研究会

長野支部共同開催 上小学会（上田小県歯科医師会内）

日 時：2018年6月9日（土）15:30～18:00
会 場：上田小県歯科医師会館
テーマ：高齢者の口腔健康管理
一口腔機能の向上を目指す管理一
講 師：下山和弘（東京医科歯科大学歯学部）
主 催：長野支部、上田小県歯科医師会

京都支部主催 公開研修セミナー

日 時：2018年7月7日（土）13:30～17:00
会 場：京都府歯科医師会館
テーマ：健康長寿に貢献する歯科の目指すもの
講 師：櫻井 薫（東京歯科大学老年歯科補綴学講座）
梶安秀樹（つがやす歯科医院）
主 催：京都支部
参加申し込みメールアドレス：
rosikyo2018@gmail.com
右記QRコードからもアクセスいただけます。



鹿児島支部共同開催セミナー 「第2回九州老年歯科フォーラム in 鹿児島」

日 時：2018年7月29日（日）9:00～13:30
会 場：鹿児島県歯科医師会館
講 師：川越正平（あおぞら診療所）
原 龍馬（はら歯科医院）
園田隆紹（共愛歯科医院）ほか
主 催：鹿児島県歯科医師会、鹿児島支部、全国在宅療養支援歯科診療所連絡会

編集後記

ついに口腔機能低下症が新病名になり検査項目が保険収載されました。この病名と検査を育てるのは、老年歯科の臨床に携わる先生と多職種の方々です。そして国民へ検査の意義を伝えていかなければなりません。老年歯科の専門医の役割が重要になる中で、本号から老年歯科医学会専門医としてご活躍の先生と新たに専門医になられた先生からご寄稿をいただくことになりました。皆様におかれましても専門医を取得し新たな活躍の場を広げていただければと存じます。（河相安彦）



発行人 櫻井 薫
編 集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
駒込TSビル (一財)口腔保健協会内
電 話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341
E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp